別紙様式

令和5年度　美祢市立【　大嶺小　】学校　学校評価書　　校長【　相田　康弘　】

1　学校教育目標

【学校教育目標】　美祢を語り、夢を語れる地域の担い手の育成と豊かな地域づくりをめざして（大嶺中学校区5校共通）
【中心テーマ】　日本一学びを楽しむ大嶺小　ー表現し合う大嶺っ子ー
【めざす児童像】　かしこく（自ら考えて行動する子）　あかるく（心のふれあいを大切にする子）　たくましく（活力に満ち心身ともにたくましい子）
【チャレンジ目標】 進んで伝える。心できく。

2　現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

【確かな学力】
○教科担任制（国語・算数）や専科指導（理科・算数）が定着してきたが、子どもたちの個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指すために、美祢市教委が推奨する「自由進度学習」の授業づくりの研修を進める必要がある。
○コロナ禍の影響からか、いわゆる基礎学力の定着の面で二極化が起きている。児童の困り感に寄り添いながら組織的・戦略的に学力向上に向けた全校体制の取組が必要である。
○朝学の時間の有効活用による学習基盤の定着、保護者との連携による二極化の解消、地域と連携した学校支援による豊かな学びの充実が課題である。
【豊かな心】
○学校・地域連携カリキュラムの実施に基づく地域学習の充実により、より地域のよさを身近に感じる学習を進めてきた。小中一貫教育の視点でふるさと美祢を愛する心を更に高めていく取組の具体化が課題である。
○たてわり班活動や保幼小中高連携で異年齢間の交流が進んでいるので、更なる充実を図りたい。また、言葉づかいに関する指導の徹底により、相手意識をベースに心を育てる教育活動を充実させたい。
○特別支援教育の視点からの教育活動を土台としている。いじめや不登校等の課題のみならず、子どもを主語にした「子どもから」の主体的な活動を重視していきたい。
【健やかな体】
○コロナ禍での制限がなくなり、外遊び、たてわり班活動等の実施は継続できている。参観日に親子で同じ体操を実施するなどの工夫により、家庭との連携を継続していきたい。
○「早寝早起き朝ご飯」の取組を中学校区全体で進めている。タブレットの使用時間に制限を設けたものの、ゲームやスマートフォンの適切な使用について、家庭と連携においてより具体的な手立てを図っていくことが課題である。
【業務改善】
○学校業務支援員による業務改善が図られ、教職員のタイムマネジメント意識が着実に上がっている。コロナ禍開けによる学校行事の本格的な再開の動きとのバランスをとり、教職員の意識改革や学校業務支援員との連携を進めていく必要がある。
○生徒指導上の対応の面で、中学校のような組織的な動きがとりづらい。そのため、学年担任制を取り入れると同時に、常に3人バックアップ体制をとることにより、課題の早期発見・早期対応・早期解決につなげていきたい
○ベテラン教員の従来の考え方と、経験が少ない若手教員との合意形成による取組の充実が、重要な鍵を握っている。

3　本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

1　学びへの主体性を高め、確かな学力を育む授業改善の推進
（1）「自由進度学習」の授業による個別最適な学びと協働的な学びの充実と主体的な学びの姿勢の確立。
（2）学力の定着「学力向上プラン」の着実な実施、朝学の全校体制での充実、学年担任制
（3）学習習慣の育成「学びのスタンダード」「トリプルススター」
2　豊かな心情や道徳性を育む教育体制及び教育活動の構築
（1）特別活動の充実・・・「子どもから」の活動（委員会活動、縦割り班集会活動、挨拶・黙動・えしゃく隊）の活性化
（2）道徳教育の推進・・・保護者・地域住民とともに行う「考え、議論する」道徳の実践
（3）相手意識を重視した活動の充実・・・地域学校協働活動・言葉づかいに関する実践力の育成
3　健全な生活と健康・体力づくりの習慣化を図る教育活動の充実
（1）「望ましい運動習慣の形成」「柔軟性向上メニュー」「外遊び、縦割り班遊び」の奨励
（2）食育の推進
（3）健康教育（生活改善）の推進「早寝、早起き、朝ご飯」の徹底
4　小中一貫教育の充実
（1）学校・地域連携カリキュラムを軸とした学びの連続性の確保とふるさと美祢を愛する心の育成
（2）学校運営協議会と地域学校協働活動（ゆめみねット協議会）との一体的推進によるコミュニティ・スクール経営の充実

4　自己評価　／　5　学校関係者評価

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評　価　基　準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教育課程・学習指導	◇児童の主体的な学習習慣の確立に向けた授業改善	○「自由進度学習」の授業の推進 ○教科担任制・専科教員による授業 ○朝学の充実 ・キュビナ、作文、フリートーク、タイピング	「授業」に関する児童・保護者アンケート肯定率 4　肯定率85％以上 3　肯定率70％以上～85％未満 2　肯定率50％以上～70％未満 1　肯定率50％未満	4	学力調査の結果は、全国平均・県平均と同程度かやや下回っている状況である。児童が苦手としている分野の傾向は明らかなので、学校全体でベクトルを合わせ、授業改善や朝学の内容に反映させながら現状を維持している状況である。 授業においては、自由進度学習の授業スタイルが児童にも定着してきており、主体的な学びの態度や表現力が少しずつ高まってきている。	・児童の学習に取り組む姿勢はたいへん評価できる。引き続き、自由進度学習の手法を取り入れた授業実践を続けていただき、主体的に学習に取り組む子どもたちを育てていただきたい。 ・マスクをしていることが多かったため、児童の表現力に課題を感じる。学校外におけるあいさつの声一つとっても、コロナ禍になる前の状況には戻っていないように感じる。 ・読書活動に関しては、その「ねらい」をはっきりさせ、子どもたちが納得した上で進めていくとよい。定期的に親子読書週間を作るなど、家庭と連携した取組も模索してほしい。	3
	◇道徳教育、人権教育の充実による豊かな心の育成	○保護者・地域住民とともに考える授業づくり ○ゆめみねットあいさつ運動の実施	「道徳の授業づくり」に関する児童アンケート肯定率 4　肯定率85％以上 3　肯定率70％以上～85％未満 2　肯定率50％以上～70％未満 1　肯定率50％未満	3	学習指導要領にも記載があるように、保護者や地域住民を交えた道徳の授業を試みてきた。また、言葉づかいに関して課題が多いため、全校体制でその改善に取り組み、児童のみならず教職員の言葉づかいにも一定の成果が現れてきた。		
	◇読書活動の推進・充実による言語能力の育成	○隙間時間の読書習慣化（給食の待ち時間等） ○ブックサークル活動（読み聞かせ等）の充実 ○選書会等を通じた本に親しむ環境の整備	「読書習慣づくり」児童アンケート肯定率 4　肯定率85％以上 3　肯定率70％以上～85％未満 2　肯定率50％以上～70％未満 1　肯定率50％未満	2	ブックサークルのボランティアによる読み聞かせを定期的に行うとともに、放送で「おはなし給食」を行った。また、図書委員会が中心となり、本の紹介バトルなどのさまざまなイベントを企画し、好評を得ている。 全校そろって読書を行う時間がとれていないことから、今後は読書の習慣化につながる計画的な取組が必要である。		
生徒指導	◇児童主体の取組・活動への転換による学習・創作意欲の向上	○委員会活動・縦割り班活動による自治活動の充実 ○総合や学活等における創作活動の充実	「学活・行事」に関する児童アンケート肯定率 4　肯定率85％以上 3　肯定率70％以上～85％未満 2　肯定率50％以上～70％未満 1　肯定率50％未満	3	コロナ禍による様々な制限がなくなったことを機に、運営委員会が核となり、委員会活動や縦割り班活動などの様々な自治的活動が活性化した。 今後は、児童が地域の一員としての立場を自覚し、地域を明るくするような外へ発信する取組を進めていきたい。	・今年度、言葉づかいに関する指導に力を入れられたことはたいへん評価できる。 ・あいさつ等、様々な生活習慣は、大人になってからは自然とできている場合が多いので、今すぐに結果を求めるのではなく、将来につながる取組であるという意識をもって子どもたちを導いてほしい。 ・生徒指導の観点からも、特別支援教育（通級指導教室）の視点を活かした指導体制が構築されていることはたいへん評価できる。引き続き、誰一人取り残さない個別最適な学びの充実に努めていただきたい。	4
	◇組織的な生徒指導体制によるいじめ防止対策	○組織的な生徒指導体制による対応 ○木曜アンケートの実施による課題への早期対応 ○「ことばづかい」に関する指導の充実	「生徒指導」に関する保護者アンケート肯定率 4　肯定率85％以上 3　肯定率70％以上～85％未満 2　肯定率50％以上～70％未満 1　肯定率50％未満	3	生徒指導の課題を学級担任のみに任せることなく、つねに3人のバックアップ体制をとり、早期解決に向けて組織的に対応することを心がけてきた。 小さな相談事から、学年をまたいだ生徒指導案件についても、概ね適切に対応できている。		
	◇特別支援教育の視点を活かした教育活動の充実	○特別支援学級・通級との連携による児童理解 ○MIM等によることばに関する計画的な指導	「特別支援教育」に関する保護者・教職員アンケート肯定率 4　肯定率85％以上 3　肯定率70％以上～85％未満 2　肯定率50％以上～70％未満 1　肯定率50％未満	4	通級指導教室のサブセンター校である強みを活かし、子どもたちや保護者の困り感をしっかり把握しながら、一人ひとりの児童に寄り添った指導を行うことができている。 また、1・2年生にはMIMの取組を継続しており、読みの流暢性に関して一定の成果が現れている。		
保護者・地域住民・他校種との連携	◇学校・家庭・地域が連携した教育活動の充実による学力向上と地域への愛着の育成	○児童の熟議への参加 ○CS委員等の参画によるユニット型研修の実施 ○学校・地域連携カリキュラムによる教育活動の実践と見直し ○地域・家庭・公民館との連携による教育活動の充実 ○ゆめみねットサポーターの活用	「地域連携・PTA」に関する保護者アンケート肯定率の平均 4　肯定率85％以上 3　肯定率70％以上85％未満 2　肯定率50％以上70％未満 1　肯定率50％未満	3	小中高の連携の取組については、学校・地域連携カリキュラムを軸に、児童を含めた熟議も実施し、学校教育目標に向かった取組を展開することができている。 ゆめみねっトサポーターの活用が十分にできていないため、来年度150周年となるのを機に、地域住民との交流をさらに進めていきたい。	・保護者はとても忙しいので、日常的に学校に足を運ぶことができないが、今年度は、参観日や行事の参加者が増え、学校や子どもたちの様子への理解は進んでいると思われる。「学校の参観日や学校表示には年1回は必ず参加しましょう」や、行事参加の振り分け等があると、もっと学校に足を運びやすいのではないか。 ・校種間連携の取組は、積極的に行われている。今後も、子どもたちの育ちや学びを繋ぎ、学校の枠を越えた人間関係づくりを進めることを通して、中学校以上で活躍する子どもたちを育ててほしい。 ・健康・体力の向上に向けては、とても熱心に取り組まれている。給食センター化も見据え、引き続き家庭と連携した食育や健康増進への取組を進めてほしい。	3
	◇校種間連携・異年齢活動による人間力の向上（心の教育の充実）	○保幼小交流会実施 ○小小交流授業の実施（外国語） ○小中交流授業の実施（生徒総会等） ○美祢青嶺高校、成進高校との連携	「校種間連携」に関する教職員・保護者アンケート肯定率 4　肯定率85％以上 3　肯定率70％以上～85％未満 2　肯定率50％以上～70％未満 1　肯定率50％未満	4	保幼小連携は、子どもたちの交流も含めて年間8回以上実施しており、たいへんよい繋ぎができている。小小連携も、外国語の授業を中心に年8回以上実施し、中学校入学前の子どもたち同士の人間関係づくりはとてもうまくいっている。 高校との連携については、美祢青嶺高校と5年生のみの交流に留まっているので、今後はプログラミング教育などを通じて、成進高校との連携を進めていきたい。		
	◇健康・体力の向上に向けた望ましい習慣の形成	○5・5ランニング、伸進ストレッチの習慣化 ○トリプルスターを活用しての生活習慣の把握・指導 ○学校保健安全委員会での啓発 ○給食指導及び栄養教諭による学級活動の充実 ○家庭・地域と連携した食育指導の推進	「体力向上」に関する児童アンケート肯定率と「食育」に関する教職員アンケート肯定率の平均 4　肯定率85％以上 3　肯定率70％以上～85％未満 2　肯定率50％以上～70％未満 1　肯定率50％未満	4	昨年に引き続き、体育の時間に毎時間ジャックナイフ・ストレッチに取り組むことで、柔軟性の改善が進んできている。 栄養教諭による給食時の5分間指導や、給食委員会による給食週間のイベントにより、食に対する意識の向上を図った。 家庭との連携については、トリプルスターの取組や学校保健安全委員会などの機会を利用して、引き続き積極的な働きかけを行っていく必要がある。		
人材育成・業務改善	◇双方向を意識した情報共有とコンセンサス形成	○報・連・相の徹底、組織的な取組の推進 ○改善・進化を意識した熟議的協議の実施 ○Teamsによる効果的な情報共有	「PDCAサイクル」に関する教職員アンケート肯定率 4　肯定率85％以上 3　肯定率70％以上～85％未満 2　肯定率50％以上～70％未満 1　肯定率50％未満	4	全校での取組に対しては、2×2シートを活用した机上での協議を行うことにより、職員間でコンセンサスを確認しながら様々な案件に対応することができた。 Teamsも積極的に活用され、適切なタイミングで情報を発信・共有することができた。	・授業づくりや生徒指導対応など、先生方が一生懸命取り組まれている様子がよくわかる。トラブルへが発生したときなどは、引き続き組織的な対応を行うことで、子どもたちが元気に通う活気ある学校づくりをお願いしたい。 ・どの先生も熱心に取り組まれるため、行事の前などは在校等時間が増えているようだが、休めるときにはしっかり休んでいただき、心身ともに元気な状態で児童に向き合っていただきたい。	4
	◇OJTを核とした組織的な人材育成とキャリアステージに応じたスキルアップ	○若手人材の主任等への抜擢 ○3年目までの人材育成会議の実施 ○中堅教員による自主研修会の実施 ○面談による研修の受講勧奨	「人材育成会議」「自主研修会」の実施回数と参加率 4　自主研修会若手参加率80％以上の回数7回以上 3　自主研修会若手参加率80％以上の回数6・5回 2　自主研修会若手参加率80％以上の回数4・3回 1　自主研修会若手参加率80％以上の回数2回未満	4	5年目までの教員が7名（担任の半数）いることもあり、思い切って分掌の主任を若手に任せ、中堅・ベテランがフォローする体制をとってきた。試行錯誤の中で、若者らしいアイデアが学校を活気づけており、組織的・計画的な人材育成につながっている。 キャリア形成を意識した研修を受講する教員が少ないので、もっと自らアクションを起こすよう促していきたい。		
	◇目的に基づいた教育活動への転換に伴う行事等の見直しと効率的な実践による業務改善の推進	○業務アシスタントとの連携 ○タイムマネジメントを意識した会議の運営 ○ICTの活用による効率的な校務の遂行	「時間外勤務」「業務改善」に関する教職員アンケート肯定率 4　肯定率85％以上 3　肯定率70％以上～85％未満 2　肯定率50％以上～70％未満 1　肯定率50％未満	4	学校業務支援員と連携しながら、連絡文書や教材・掲示物の作成などを効率的に行うことができた。ICTの効果的な活用により、ペーパーレスの会議も可能になり、勤務の効率化が図られている。 会議を予定時間内で終了するよう工夫を図ることで、職員間でも業務改善の意識が共有されている。		

6　学校評価総括（取組の成果と課題）

・授業改善や学力向上に向けた取組は着実に進んでおり、児童の資質・能力の向上に向けて、日々の取組は着実に進化できしている。しかしながら、多くの児童が家庭学習が習慣化しておらず、家庭との連携、及びICTの効果的な活用が重要な鍵を握っている。
・児童が主体的に学習に取り組む習慣を身に付けるためにも、子どもたちの困り感に寄り添い、何ができて、何ができていないのかが自分でわかる「メタ認知力」を高める必要がある。
・小中高の学校・地域連携カリキュラムを熟議で検証するとともに、麦川小、豊田前小、於福小との合同授業を年8回定期的に行った。保幼小連携の取組も年8回実施し、子どもたちだけでなく、教職員同士の有意義な交流・情報交換が実施できた。
・人間関係づくりや、いじめの防止に向けて取り組んだ「言葉づかい」に関する指導は、児童だけでなく、教職員の児童への関わり方にもいい影響を与えた。しかし、児童同士のトラブルは日常的に起こっており、どのようなケースにおいても、問題の早期発見・早期対応・早期解決に即時対応できるよう、体制を整えておく必要がある。
・集団への適応が難しく不登校傾向の児童がいる。専門機関や家庭と連携するとともに、自己肯定感を育む仕掛けを続けながら、全校体制で支える努力を続けている。
・学年担任制を活かした取組や、3人のサポート体制による教員を支える仕組み等により、児童・学級を常に複数の目で見ながら指導・支援を行うことができた。
・コロナ禍後の本格的な取組再開を機に、学校や児童に関わっていただいた地域の方約200名を招待し、「感謝のつどい」を実施した。来年度の150周年行事につながる取組となった。

7　次年度への改善策

・美祢市が推奨する「自由進度学習」については、まだ授業実践が始まったばかりである。どの教科、どの単元が適しているのか、児童の資質・能力に着目した評価・振り返りを行うとともに、実践を重ねながら検証を進める必要がある。また、自由進度学習が子どもたちの学び方のスタンダードとなるために、引き続き全教員で授業研究や単元計画づくりを進め、児童の学力向上、学習意欲の向上へとつなげていきたい。
・大嶺小の特徴的な取組である「委員会活動」や「縦割り班活動」を通して、子どもたちのアイデアを活かした自治活動を活性化し、自己肯定感の育成につなげていく。また、150周年記念行事を児童と保護者・地域住民の絶好の交流の機会と捉え、外部人材を活かした取組により、児童の活躍の場を増やす。
・生活習慣の定着につながる「トリプルスター」の取組や、給食のセンター化を見据えた食育の充実に向けて、それぞれの取組や活動の目的をはっきりさせ、実効性のあるものにしていく。
・美祢市の中心校として、引き続き保幼小中高の校種間連携の取組を充実させるとともに、子どもたちだけでなく、保護者や地域住民とのつながりづくりを通して、人づくりと地域づくりの好循環の創出を目指す。